

ステップ2 想定する：地域で取り組む課題を設定しよう

それでは決定したテーマを踏まえ、詳細な「いつ、どこに、どんな」を考えていきましょう。
・想定される災害発生時のストーリーを考えていくと、防災マップに載せる「集めるべき情報」が分かってきます。

調査範囲を決める

…「近所の大きさ」というのは皆さんそれぞれだと思います。まずは歩いて10～15分の大きさに調査範囲を設定するとよいでしょう。これ以上大きいと歩いて調査するときに疲れてしまい、また災害特性も大きく変化することがあります。目安として板橋区では1小学校区、最大でも1中学校区程度の広さが適当です。

範囲を決める時もっとも重要なのは、町会・学区・住所のような人為的な線ではなく、**地形的な境目で線引きをする**ように心がけることです。自然災害は人が付けた地番ではなく、地理的な要因(土地の高低、地盤の強弱など)によって被害状況が決まるからです。

参加者・団体をまとめる

…「地域住民」「企業」「学生」「行政」と、年齢・性別・組織にこだわらず幅広く参加できるよう、周囲をどんどん巻き込んでいきましょう。この時、**災害に対する「危機意識」を共有している(同じ危険にさらされている)**かどうかのポイントです。人数の目安として、30人～50人程度がまとまると効率よく作業がすすみます。

「もし～～が～～だったら」想定状況を考える

…一番起こり得る危険な状況を想定して、活きた地図を作成できるかを考えながらシミュレーションしてみましょう。電気は？交通路は？建物？天気は？時間は？これらを思い浮かべることが大切です。

「足腰が悪く自宅待機されている方が、500メートル先の一時避難場所まで雨の中どう移動するか？」

「細い坂道で強風時に火災が発生。どう延焼し消防車はどこまで入れ、自主消火は誰がどう行うのか？」

「ゲリラ豪雨で地下駐車場水がなだれ込む、逃げるか助けるか？土嚢は誰がどう運ぶ、積むのは誰？」

のように、発災時に直面するであろう課題を災害テーマに沿って想定していきます。ただし、「AEDや消火器の場所を把握する」というような問題解決型でないテーマでは、地域の課題解決へつながりにくいです。

以下を用いて、防災マップを始めるための課題を整理してみてください。

地域課題の取り組み詳細設定

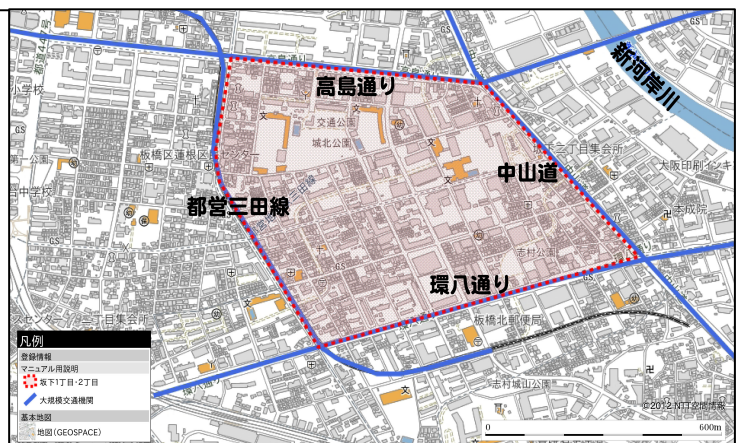
	内容	ポイント
災害テーマ		前頁で設定した想定は適当か
調査範囲		地形的特性は共通か
参加者・団体		危機意識を共有しているか
想定状況		「では何をしよう」実際の行動を導けるか

ここでの具体性が以降、誰のための、何のための、どんなマップになるかを定める重要な要素となってきます。

板橋区坂下1丁目2丁目地域での例：

災害テーマ：河川氾濫とゲリラ豪雨の複合災害
調査範囲：線路と幹線道路に囲まれた約0.7km²
参加団体：小～大学生、企業、町会・自治会、PTA、地元青年部、消防署。約50名

想定状況：平日金曜夕方にゲリラ豪雨で新河岸川が氾濫。足首まで浸る水があと30分で1～3mの高さになる。範囲外へは道路冠水で逃げられない。では、今すぐ近くの高い所に避難して身の安全を確保せよ。



ステップ3 考える:まち歩き・書き込み・入力

設定した災害テーマ、取り組む地域課題をもとに、実際に歩いて地図に書き込む防災マップの作成作業に入ります。ここでは、防災科学技術研究所のe防災マップ(デジタル地図*)を使った手法で説明します。1、歩く 2、白地図に書き込む 3、パソコンで入力する 4、議論する を繰り返します。

ここがポイント！

まち歩きで用意するもの:

- 白地図(紙)
- 付箋(ポストイット)
- ペン(カラフルに)
- パソコン
- プロジェクター(あれば)

※パソコンでの入力はインターネット上で行っていくため、特別に用意する必要はありません。各自所有の物をお使い下さい。

e防災マップについて

コンテスト事務局に連絡頂くかインターネット上で登録申請を行うと、数日後にご指定の地域の地図(e防災マップ)が提供されます。

お問合せ:
e防災マップコンテスト事務局
emap@bosai-contest.jp

基礎データについて

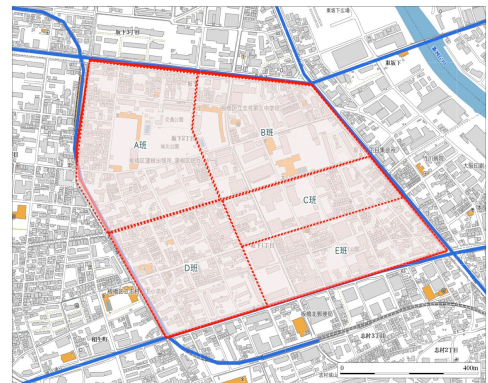
時間的・技術的に余裕があれば、

- インフラ
- 過去の被害
- 土地高低差
- 公共施設
- 避難所
- 土地条件図

など、マップづくりに有益な地理情報が国や行政から提供されています。白地図に載せて印刷することもできますし、まずは紙で資料を揃えておくとも便利です。

0、はじめに

まずは、地域をいくつかのエリアに分けます。すべての範囲を全員一緒にまわる必要がないよう、歩ける大きさに設定してそれぞれに担当の班をつけます。一班はだいたい5~10名で、班長・道案内係・地図係・写真係のように一人一人の担当を決めます。そして、まち歩きを楽しみましょう！



調査しやすいよう、色分けをする

1、歩く

立てた災害ストーリーに沿いながら情報収集をしていきます。まずは建物・道路・障害物の状況、避難場所までのルートや安全確認など、現場が発災中にどうなるのかを考えながら記します。

子ども達は楽しく、様々な情報(壁が崩れそう、見通しが悪い、など)を見つけられます。しかしここで大切なのは、**課題・問題**を見つけてくるという点です。大人の方は「では、想定する災害時にどうなるのか、どうするのか。そしてどう備えるか。」を常に自問しながら歩いて下さい。



まち歩きは、交通安全に心がけて



天候が悪い時に地震が起こるなど、様々な想定を

☆デジタル地図とは?? 【デジタル】【パソコン】【インターネット】が苦手な方へ…

カーナビや、携帯電話の路線図検索、Googleマップなどのように、さまざまな情報が電子地図として表示されるものを言います。“デジタル”というと、どうしても敬遠してしまう方もいますが、デジタル地図は簡単に直感で扱えるようになってきています。特にご紹介するデジタル地図『e防災マップ』では、インターネット上であっという間に作成・活用・更新ができますので、ぜひ触れてみて下さい。

それでも、やっぱりインターネットが苦手だと感じる方は、ぜひこれを機会に家族や近所の若い方・得意な方に声をかけてマップづくりへの協力を仰いでみてはいかがでしょうか。